

鹿児島の動物44

身近な動物の見分け方

動物担当 池 俊人

現在開催中の企画展「人里の鳥獣」では、身近な動物約100種の標本を展示しています。野生動物を普段詳しく観察する機会は少ないと思います。剥製などの標本は、間近でじっくりと観察できるので便利です。この機会に、よく似た種を見分ける方法を、いくつか習得してみませんか。正しい生物名を知ること、より一層身近に感じられるようになることでしょう。

(1) ホンドタヌキとアナグマとアライグマ



ホンドタヌキ (イヌ科)



アナグマ (イタチ科)



アライグマ (アライグマ科)

よく似ている3種ですが、まずは尾に注目してみましょう。尾にしま模様があればアライグマで、なければホンドタヌキかアナグマのどちらかです。



ホンドタヌキの顔



アナグマの顔

ホンドタヌキとアナグマの顔を正面から見ると、ホンドタヌキは目の下に黒い模様があり、アナグマは目の前後に縦に伸びる筋状の模様があります。また、アナグマの尾はとても短いことも、はっきりとした特徴の一つです。

(2) ニホンイタチとシベリアイタチ

現在、県内にはニホンイタチ（在来種）とシベリアイタチ（外来種）の2種のイタチが生息しています。姿は非常によく似ていて見分けるのは困難ですが、尾の長さに注目すれば、見分けることができます。



ニホンイタチ



シベリアイタチ

2種の剥製標本を見比べると、ニホンイタチよりもシベリアイタチの方が、尾が長いことが分かると思います。尾長が、体長（尾を除く体の長さ）の50%より短ければニホンイタチで、50%かそれ以上ならシベリアイタチと判断することができます。

(3) ハシボソガラスとハシブトガラス

身近な2種のガラスですが、ハシボソガラスはくちばしが細く、ハシブトガラスはくちばしが太いのが特徴です。



ハシボソガラスのくちばし



ハシブトガラスのくちばし